

## 中国における古代武術の成立に関する研究

### — その2 —

竹 田 隆 一

教育学部 生涯スポーツ講座

陳 民 盛

中華人民共和国 東北師範学院

黒 須 憲

東北学院大学

斎 藤 浩 二

仙台大学

(平成13年10月1日受理)

### 要 旨

中国文化の伝統の中で培われた三つの基本観念が、武術の発展に大きな影響を及ぼした。一つは伝統的な道德観である。義を至上とし、礼をもって人をもてなし、仁愛をもって世に対処し、国を守り民に尽くすという観念が武術世界に浸透し、武徳が形成された(道德と武力の合一)。二つは、天と人を合し、内外を一にする天人観である。これは、闘争能力の向上のために、身体の外形を意味する外と意・気・勁を意味する内を調和させることを説き、武術の技法理論の形成に影響を与えた(調和と闘争の合一)。三つは、宇宙万物を陰陽に二類し、陰陽が相互依存、相互制約、相互転化するという陰陽観である。これは、陰陽の変化規律から、虚と実、速と遅、動と静などを解釈し、相手を制する法を説くものであり、武術における対人攻防理論の形成に影響を与えた(相反相成)。

また、武術体系の形成と発展は、文化整合現象であり、三つのことを示唆するものである。一つは、武術の伝統は、ひとたびできあがれば不変というものではなく、絶えず文化的要素を吸収し、発展していくものである。二つは、武術の本質は、相手を打ち負かす能力の向上であり、そのことが武術の発展の基本となる。三つは、武術哲学の思考や判断に基づいて、自らの武術実践をおこなうわけであり、武術哲学が武術発展の鍵となる。

### 1 はじめに

武術構造の深層を成すのは武術意識であり、それは武術動作の指導や運動形式に見られる価値観や思考法などをも含む。武術の原初の意識とその基本(動作)の本質は一致しており、武力、闘争、相手に勝つことを目的としている。自己を中心とし、闘争を特徴とし、

武力を手段とする意識である。一方、中国伝統文化の価値観は、道德至上主義に最もよく現れているが、さらには、「天人、内外合一」という総体的調和や陰陽を対応させた陰陽弁証観も重要な位置を占めている。中国文化の伝統におけるこれら三つの基本的な観念は、武術の発展にも強い影響を及ぼし、その規範となっている。また、しだいに文武融合し、武術の本意を超越した新しい武術意識が形成された。つまり、道德と武力の合一、調和と闘争の合一、相反相成<sup>1)</sup>を特色とする意識が形成されたのである。

## 2 道德と武力の合一

中国の武術意識においては、伝統文化の道德観が武術に大きな影響を与えたために、道德と武力とが合一され、その道德観が武術の価値観の規範ともなった。

中国伝統文化においては、「徳に厚い者は豊かになる」ことを強調し、人類最大の価値は、大地のように、寛大で厚い徳行が万物を包含し、万物を育むことにあると考えられている。孔子は、「君子は義をもって上となす」と述べ、道德を最も価値あるものとして位置づけた。このように、道德を至上のものとする価値観が、武術意識と融合することによって「武徳」を形成した。武徳というのは、練武、用武の際に守られるべき道德規範である。武徳は、武術の発展に伴いますます伝統的道德観の傾向を強くもつようになった。すでに先秦の時代には、知人の恩に報いるため、虐げられた弱い者の味方をするため、あるいは個人的な名誉のために、「禁を犯して、武力に訴えた」武人の行為がしだいに規範化されていた。つまり、義を優先し、礼をもって人をもてなし、仁愛をもって世に対処し、国を守り民に尽くすことを最高の規範とする武徳観念がしだいに形成されつつあったのである。施耐庵の『水滸伝』は、武徳発展の筋道を参考にして、武壇の観念を形成したものである。話題の主である梁山博伯は、ほとんどの場合、先ず路上で人の危難を見ると抜刀して助け、続いて暴力行為を取り除いて善良な民衆を平静にさせ、最後に「天に代わって道を論じ」、朝廷（彼らが国と考えるもの）に忠勤を尽くして終わる<sup>2)</sup>。つまり、彼らの武壇の行為は、禁を犯し武力を用いて、義ある者を助けることによって古代武徳を描きだし、最後に民衆のために国を守るというおおよその輪郭を持っている。

以上のように、中国伝統の道德至上主義的価値観が武術意識と融合した後には、道德と武力の統一が追求されるようになり、結果的に、武術を厳しく訓練することが道德規範の中に組み込まれていった。このため、「技術を学ぶ前にまず礼を教え、武術を学ぶ前に先ず徳を明らかにすること」を要求し、「文をもって心を評し、武をもって徳を観ること」を尊ぶようになったのである。

さらに、武術を学ぶ者は、武徳を日常生活においても標準規範とすることが要求されるようになった。つまり、「血気にまかせて行動することを戒め」、「強者におもねり弱者を侮辱してはならない」のであり、他人と格闘するときは、孔子が提唱した「君子の争い」のように、「徳をもって人に服」さなければならず、闘わざるを得ないときは、道德規範に合致することを前提に闘わねばならないのである。また、相手の身体を傷つけることもできる限り避けなければならない。しかも、武術を学ぶ者は、傷の治療術を習得し、闘いで傷を負った者を治さなければならない。つまり、「殺すことを知りて、救うことを知らざるは、人道に大きく背くことなり」ということである。さらには、武術を学ぶ者は、武

力をもって民衆のために暴虐を取り除き、悪を懲罰し、義のためなら身を捨てることも惜しまない態度、言い換えれば、武力をもって国を守り、辺土を守り、身を殺して仁を行う態度が要求されるようになった。

### 3 調和と闘争の合一

中国伝統文化における総体観念が武術にも影響を与えたために、調和と闘争の合一意識は、武術の規範ともなった。

中国伝統文化は、「天人を合し、内外を一にする」ことを強調する。この種の天人合一、内外統一の総体観念は、中国文化が自然、社会、人間関係を考える際の基本的態度である。巨視的に見れば、天・地・人間、あるいは自然・社会・人間関係は相互に関連した一つの総体である。微視的に見れば、どんな事物も内外相合し、いかなる事物もその他の事物と相互に関連し合い、相互に影響し合っている。このような観念が、しだいに武術意識の中にも浸透し、影響を及ぼして、武術の総体意識、すなわち調和と闘争の合一意識を形成するようになった。

闘争の基礎には調和があり、人と闘争するときには必ず前もって自分自身の全体を調和させておく必要がある。技術の練習については、明の戚継光が「上下周全」概念を唱えている。それによれば、「常山蛇陣法のように首を打てば尾が応じ、尾が打たれば首が応じ、その身が打たれば首尾相応ず。まさに万全の態勢である」<sup>3)</sup>。一方、技法面では、明代末期清代初期に著された『心意六合拳』が拳式六合概念を唱えた。つまり「心と意が合し、氣と力が合し、筋と骨が合し、手と足が合し、肘と膝が合し、肩と股上が合す」。稽古では、明代末期の『易筋経』の中で、「有形と無形が補佐し合う概念」、すなわち、「形ある物を鍛えるには、無形の助けが必要であり、無形のものを培うには、有形の補佐が必要である」<sup>4)</sup>ということが提唱された。清乾隆年間になって、「天と人を合し、内外を一にする」観念が、完全に武術意識に取り込まれた。『萇氏武技全書』においては、「人は天地の氣を受けて生まれる。つまり一個の小天地である」<sup>5)</sup>ことが明確に述べられ、拳を習い武を学ぶ者は天地の道を学ばなければならないとし、人と自然の合一が強調されている。それとともに、「内外如一」形気合一などの総体観念が説かれている。このように、拳家は次々と内外合一を強調した一連の規範を定めるようになった。武術技法の原理では、身体の外形を外とし、意・氣・勁を内として、意・氣・勁・形の四者を順番に組み合わせた内外合一を強調し、処置器械と人体を組み合わせた兵械技法原理においては、「身械合一（つまり「物我合一」）」を重んじ、教学原則では、「内外兼修」を強調する。また、武術訓練の原則では、「内外互導」を強調するが、武術を健康増進のためという側面からとらえた場合には「内壯外強」を追求し、武術を審美的側面からとらえた場合には「神（内）形（外）兼備」を追求するなど、これらのすべてが総体的調和の影響の下に、武術の闘争能力の向上を追求しているのである。

調和と闘争の合一も、人と格闘するときの打法の一種である。太極推手は比較的好くこの観念を現している。二人が手をつないで押し合うと、双方とも「捨己従人（己を捨てて相手に従う）法になる。適度な「捨」は、積極的に相手との間に調和を生むことになる。もし一方の「捨」が過度であったり、及ばなかったりすると、このような調和は破れると

同時に破綻してしまい、その結果として、相手はこれに乗じて攻撃に転ずることになってしまう。この種の格闘運動形式は、協調を基礎に闘争を進める運動で、闘争の勝利を手段として調和を追求する運動でもある。このことは、「自強不息」の闘争精神と「天人合一」の調和の精神を合一した点に特色がある。

#### 4 相反相成

中国伝統文化における陰陽観が武術にも影響を与えたために、相反相成の意識が武術の規範ともなった。

中国伝統文化は「一陰一陽、これを道と謂う（『易経』繫辞上傳）を強調する。陰陽を万物の基礎とし、宇宙万物を陰陽二類に大別し、陰陽が相互依存、相互制約、相互転化するという考え方で、事物内部の関係や事物相互の関係を解釈し実行する。このような思考法の規範下において、武術においても、陰陽弁証意識つまり相反相成の意識の影響を受けることとなった。

つまり、武術における動静、開合、剛柔、虚实、進退、伸縮、攻防など相互に対応する現象を陰陽に分類し、さらに陰陽の変化規律によりこれらが規範化されることによって、陰陽の変化規律による実践指導が形成されたのである。早くも春秋時代に、曲城の「越女」は、越王勾踐が「剣の道」を問いただしたのに対して、「道に門戸あり、また陰陽有り、門を開け戸をしめれば、陰衰え陽興る（『呉越春秋』勾踐陰課外伝）と答えている。戦国時代あるいはそれよりわずかに遅れて世に問われた『莊子』人間篇では、次のように言われている。「且つ巧を以て力を闘わず者は、陽に始まりて常に陰に卒わる、<sup>はなは</sup>泰<sup>だ</sup>至れば即ち奇巧多し。（技を競って勝負をする者は、初めは形を見せ合うが、終わりにはきつと陰謀を巡らすようになり、極端まで行くととんでもない技が飛び出すことにもなる）」<sup>6)</sup>。一方、『莊子・説剣』のなかでは、陰陽の変化規律を運用して虚と実、速と遅、前と後<sup>おさ</sup>はすべて相対的なもので、転化可能であることを指摘している。そして、「それ剣を為むるものは、これを示すに虚をもってし、これを開くに利をもってし、これに後れてもって発し、これに先んじてもって至る。（剣を学んだと言える者は、相手に無術であるように見せかけ、相手に有利なようにして誘い込み、相手に後れて行動を起こしながら相手よりも先に目的を達するのです。）」<sup>7)</sup>とされている。二十世紀初頭になって、陳氏太極拳理論家陳は、『周易・繫辞』において「一陰一陽、これを拳と謂う」<sup>8)</sup>を主張し、『太極拳図書講義』のなかでは、「一陰一陽の謂拳」<sup>9)</sup>を唱え、単刀直入に武術技法理論が陰陽規律に従うべきであることを強調した。さらには、攻防関係について考えるときは、攻中防あり、防中攻あり、攻防相依り、攻防互用することを、力については剛中柔あり、柔中剛あり、剛柔相助くことをそれぞれ指摘し、ほとんどすべての武術技法の基本原則を、陰陽の変化規律に準拠して拳技理法を解釈することによって、規範化した。

相反相成の観念の支配下で格闘者が追求するのは、格闘する双方の条件がかけ離れているときには、弱者が陰陽転化の規律を利用して逆方向の力を借りる方法である。そうして機会を探り、一旦時の勢いに乗れば、味方の優勢にまかせて相手をうち破る。このような観念を追求するにつれて、武術格闘では、巧妙を尊ぶ傾向が現れてきた。

このように、中国文化伝統の最も基本的部分である道德観、天人観、陰陽観の三つの観

念が武術構造の深層にまで透徹したために、総合的な武術意識は、文武融合の特徴をもつものと規範化されながら、発展してきたのである。

## 5 武術構造における中間層の気質規範現象と変異現象

武術構造中間層に位置を占める武術動作は、武術構造の核心部分であり、また武術運動形式を構成する基本単位でもある。そこで、武術動作を武術気質と呼ぶことにする。武術構造深層の意識は、中間層の気質を通して表現される。

### (1) 武術総体意識が武術気質に与えた影響

武術における調和と闘争の合一という意識の支配下では、運動肢体相互が調和し、四肢六関節の上下対照、左右相合が要求される。つまり、手と足・膝と肘・肩と股上が合し、さらには、外部形態と内部の意・気・力が順番に協調するように、動作を訓練しなければならない。運動時においては、いったん動けば動かないところがないよう、また動きが止まれば動いているところがないよう要求されるので、上下調和し、身体全体が動静を整え、整然と節奏を持って動いていることを示さなければならない。また、格闘運動中には、蹴る、打つ、投げる、掴む、あしかけ（跌）など各種の技法をも兼用しなければならない。防衛するときには、攻撃することを忘れないように、逆に攻撃するときには防衛することを忘れないようにする必要がある。また、上に気を取られて下を忘れたり、一つのこと心に奪われ他を忘れることがないようにする。自分の身体全体をしっかりと把握し、どこもかしこも「拳」にして、相手に対する防衛と攻撃に備える。功法運動では、練習によって力を整え、力を発し、力を用いることを強調する。

### (2) 武術陰陽意識が武術気質に与えた影響

武術における相反相成という陰陽弁証意識は、対応する双方の相互依存を強調する。このような意識支配下においては、武術動作の関節を十分に伸展できないために、動作が丸く自在になる。例えば、伝統武術においては、上肢は、すべて曲中に直を求め、直中に曲を求められるために、上肢が攻撃に出るときは、肘関節部をまっすぐ伸ばすのではなく、直に似ているが、そうではない動作をしなければならない。このような動作は、伸縮自在で、あらゆる変化にも柔軟に対応することができる。套路運動形式では、中国表演芸術が強調する円曲美を表現し、格闘運動形式では、肘関節をわずかに曲げて、庇護や連続攻撃に有利な姿勢をとる。肘関節が真っ直ぐだと、攻撃にはやや優れているように見えても、相手に反関節技法を利用されて、逆に攻撃され易くなってしまふ。功法運動形式では、肘をやや曲げることによって意気の流通を助ける。肘関節が曲がり過ぎると、意気の流通が妨げられることがある。

### (3) 武徳意識が武術意識に与えた影響

武術における道徳と武力の合一という武徳意識は、徳を重んじ武力万能でないこと、巧を尊び、武勇を尊ばないことを強調し、「己の欲せざる所を人に施すこと無かれ（『論語』衛霊公篇）を重視する。このような意識が支配的であると、速が遅を制し、力の大きなものが小なるものを打ち負かすなどの格闘の一般的な規律は、どうでもよい技と見なされ、また覇を競うことが取るに足りないことと見なされるようになる。武壇は、武徳の修養を強調し、徳をもって人を服せしめ、巧をもって人を制すことを追求する芸境を形成した。

このため、誤って相手の身体を害することがないように、「八不打」などの格闘競技を提唱した。相手を征服しながらも傷つけないように、中医経絡学説を受容することによって点穴法を開発し、さらに人体構造に対する認識を深めることによって擒拿法を開発した。その他にも、人が自分を犯さず、自分も人を犯さないこと、静の状態を待ち、その後人に人を制する格闘法も開発した。

## 6 一種の文化整合現象としての武術体系の形成と発展

武術構造における表層、深層、中間層を分析することによって、中国伝統文化と武術を構成する三つの層が緊密に関連しあっていることを見て取ることができる。この全体の中では、武術の要素と文化の要素が二つとも存在しており、文武融合、整合一体化して武術体系を形成している。この整合現象は、われわれに次の三つのことを示唆している。

### (1) 発展しつつ変化する武術の伝統

武術は中国文化という大きな伝統における一つの小さな伝統である。大きな伝統は、小伝統の発展に影響を与える。前述のように、本来敵を制し勝つことを唯一の目的として、套を練習しない太古の武術は、舞台芸術の影響下で套路運動の形式を形成した。伝統哲学原理の影響を受けて、野蛮殺伐な格闘術は、文化趣味濃厚な推手運動形式にまで高められた。養生功法と雑技練法の影響の下では、丁功法運動体系が完成された。中国伝統文化の影響を受けて、調和と闘争の合一、相反相成、道徳と武力の合一を特色とする武術意識が形成され、その基礎の上に武術理論の体系が確立された。これらのことは、武術の発展過程だけでなく、絶えず文化的要素を吸収し続けた過程を、さらには、武術体系が固定化した閉鎖システムではなく、可塑性の極めて大きな開放システムを持っていることをも示すものである。

### (2) 武術における本質の不変性

文化が武術に浸透するにつれて、武術における文彩の傾向はますます豊かになった。しかし、文化浸透の程度いかに関わらず、武術は、結局はそれ自体の本質や特色に沿って発展してきたと見ることができる。伝統文化の浸透は、武術の本質の周辺に文彩を豊富にただけで、武術の本質を変えたわけではなかった。武術の本質は、常に敵を制し勝つということである。前述のように、格闘運動形式における蛮闘・巧闘・戯闘は、採用した格闘形式がそれぞれ発展したものであるが、その本来の目的は、以前と同様に、相手を打ち負かすことである。武術套路における優劣の主な評価基準は、実用動作で編成されているか、それとも実用にならない「花拳繡腿」で編成されているかということである。功法の編制思想と練習目的は、ともに相手を打ち負かす能力の向上を出発点としている。このように、相手に勝つという武術の本質は、その発展においても変化することはなかったのである。

### (3) 武術意識の発展の二面性

武術深層の意識には二面性がある。武術意識は、すなわち武術の本質の反映であり、また人が社会的存在であることの反映でもある。意識は、存在によって決定されるが、逆に存在に作用を及ぼす。前述した武術意識は、武術の本質意識と文化意識が統合されたものである。武術意識がいったん形成され、武術修行中の者に受け入れれば、修行者はそ

れを価値基準とするが、さらにそれをういて問題を観察し、思考することができる。また、そこから導かれることは何か、何をすべきなのか、どのようにしたらよいのかなどの判断もすることができる。これらの思考や判断に基づいて、自らの武術を実践・指導していくことになる。武術意識が芽生えさえすれば、自覚をもって武術修行に取り組み、努力することが出来る。武術套路の運動形式の出現がそのよい例である。武術意識が芸術の型の訓練にまで及べば、その意識は武術訓練と表現武術に有効に働き、そうなることによって、初めて主導的に学ぶとともに、新たな型を編み出すことができるようになる。また、比較的広い発展領域が期待できる。まだ意識に浸透していない表層の発展形式は、「懸花一現」に過ぎず、意識層の深化・発展なくして全体の発展は促進されない。意識層が新文化の要素を十分に融合して初めて、そのような意識層はさらに新たな整合体を生みだすことができるのである。

### 引用・参考文献

資料とした文献は、写本であるため、詳細な年代、ページは不明です。明らかな部分のみを掲載します。

- 1) 相反相生とは、中国の伝統的観念である。「互いに反しながら、互いに成り立たせ合うこと。相反しながら、整合している」ととらえられる。  
香坂順一、1992年、現代中国語辞典、光生館、p840
- 2) 明代、施耐庵、水滸伝
- 3) 明代中期、戚繼光、紀効新書
- 4) 明代、易筋経、
- 5) 清代、萇氏武技全書、
- 6) 秦代、莊子・人間世
- 7) 秦代、莊子・説劍
- 8) 清代、陳金、
- 9) 清代、陳金、太極拳図書講義

### Summary

**Ryuichi TAKEDA<sup>1)</sup>, Minsei Tin<sup>2)</sup>, Ken KUROSU<sup>3)</sup>, Kouji SAITOU<sup>4)</sup> :**  
**A Study on the formation of marcial arts in ancient China . - NO 2 -**

Three basic ideas of the unification of ability and moral, and the unification of harmony and dispute, and “xiang fan xiang cheng” ( souhan sousei ) which appears in the tradition of the China culture, affected the development of the real intention of martial arts . and the harmony of pen and sword would be formed that they were the new marcial arts philosophies.

Feeling of value sense which made the moral to be a thing of the supreme permeated in martial arts philosophies, and martial arts moral were formed. Martial arts did battle a spirit which fought the partner with the means, and it formed the spirit of the harmony in which heaven and human became a one body. and In-yo theory was determined as a basic principle of the martial arts technique.

The tradition of martial arts always absorbs the cultural element and develops, and the essence of martial arts is the improvement in the ability of beating partner, it becomes a basic of martial arts development . and martial arts philosophies become a key of martial arts development, as it is the meaning that martial arts practice is carried out by martial arts philosophies. Martial system formation development culture matching phenomenon.

- 1 ) Section of Lifelong Sports, Faculty of Education
- 2 ) Northeast Normal University in China
- 3 ) Tohoku Gakuin University
- 4 ) Sendai University